

### 福岡県における農用トラクターの利用実態について

神屋静太郎・毛利雅彦・上原三郎・石田良晴  
(福岡県立農業試験場)

KOYA, S., MORI, M., UEHARA, S. AND ISHIDA, Y.  
On the Investigation into the Actual Utilization of  
Medium Size Tractor at Fukuoka Prefecture

#### I. はしがき

機械化営農の先進的農家・農場・農協等について利用の実態を調査し、試験結果と相俟つて機械利用技術の規準を確立する資料を得るために行つた。福岡県は水田二毛作地帯で冬作には麦・なたねが多く在来は畜力耕先進地として高畦栽培が多かつたが、近年機械利用に移行している。ただし大・中型トラクターについてはまだ標準的技術体系が確立するまでに致らず、地域による利用形態にも差がある。従つてこれらの作業性能・機械の大きさと支配面積・利用法等について調査を行つた。この調査では農用トラクターの内、10PS以上の乗用型のものについて行つた。調査対象から県有機械公社有・試験研究用・教育用等は除外した。なおこの調査では小型とは10PS以下、中型とは10PSより大きく30PS以下、大型とは30PSより大きいトラクターを指している。

#### II. 普及状況

昭和38年2月現在の普及台数は大型6台中型14台計20台で第1表のとおりである。

##### a. 所有形態別普及台数

農協有一大型5台・中型2台計7台。組合有一大型

1台。共有1戸共有1台、4戸共有1台、21戸共有2台(何れも中型)計4台。個人有一中型14台。

##### b. 導入年度別台数

昭和31年—大型1台、中型0台、計1台。  
〃 35年—〃 3台、〃 1台、計4台  
〃 36年—〃 2台、〃 1台、計3台。  
〃 37年—〃 0台、〃 12台、計12台。

##### c. 銘柄別普及台数

大型—フォードソン(デキスタ)5台、フアーガソン(FE35)1台。中型—クボタ(T18)1台、クボタ(L15)12台、トヨタ1台。

##### d. 大型機用付属作業機

大型は水田二毛作田の耕うん作業が主体になつていて全部プラウを所有し、その殆んどが2連である。その他はロータリ4台、ディスクハロー2台、サブソイラ3台、リヤブレード1台である。深耕および耕土改良が主目的であり、農家の要望による申込で作業をし、収支に余裕が出来れば他の作業機を買う予定のものが多し。

##### e. 中型機用付属作業機

中型についても耕うん整地が主になつていて、ロー

第1表 乗用農用トラクター普及状況 (昭和38年2月調査)

地域	大きさ	機種	銘柄・型式	所有形態	所有者
筑後川下流	大型	ホイール	フォードソン・デキスタ	農協有	筑後市・西牟田農協
福岡市近郊	〃	〃	〃	〃	粕屋郡・古賀町農協
〃	〃	〃	〃	〃	福岡市・多々良農協
〃	〃	〃	〃	〃	福岡市・原農協
豊前沿岸	〃	〃	フアーガソン FE 35	組合有	糸島郡前原町農協
筑後川下流	中型	〃	フォードソン・デキスタ	農協有	筑上郡西吉富農協
〃	〃	〃	クボタ L 15	21戸共有	筑後市長浜町 篠原信男
〃	〃	〃	トヨタ	〃	〃
〃	〃	〃	ク	農協有	筑後市古川農協
〃	〃	〃	L 15	〃	三潴郡三潴農協
筑後川中流	〃	〃	T 18	個人有	三井郡小郡町 吉原健文
〃	〃	〃	L 15	3戸共有	〃 北野町 平田与平
〃	〃	〃	〃	4戸共有	〃 〃 野村正利
〃	〃	〃	〃	個人有	〃 大刀洗町 平田国雄
福岡市近郊	〃	〃	〃	〃	筑紫郡筑紫野町 富岡 祐
〃	〃	〃	〃	〃	宗像郡宗像町 丸丸 精一
筑豊炭田	〃	〃	〃	〃	鞍手郡鞍手町 田中 認
北九州	〃	〃	〃	〃	遠賀郡芦屋町 安高藤吉
〃	〃	〃	〃	〃	小倉市北横白 下原友次郎
〃	〃	〃	〃	〃	〃 曾根 尼岡牧場

タリ耕が一般に行われており、冬作には付属培土板による畦立耕を行つている。農協有の中の1台は酪農用として導入されたもので、ブムウ・ディスクハロー・リッジャー・ライムソー・グレインドリル・モアー等がある。共有のものにはロータリの他に、ドリルカトレーラを所有している。個人有のものでは牧場用の1台にロータリ・ブラウ・モアー・レーキ・トレーラを所有している。他のもの即ち農協の1台個人有の7台はロータリを主にし培土板・整地板・車輪用補助ラゲ等があるのみである。個人有の中の1台は畑作専用で使用されロータリと作条機を具えている。

### Ⅲ. 作業面積・賃耕

大型の経営用土地面積(各作物作付面積の年間通計)は400~800haで、トラクタによる耕起・砕土面積は7.2~37.5haである。賃耕収入は西吉富農協の約6.1万円から古賀農協の72万円と開きがある。西吉富では土壌状態不良で作業困難な所を行つており、古賀町では奨励をしているわけでもなく申込めばしてやる程度である。但し冬季に果樹園の深耕を行つている。

中型には農協有が2台あつて余り積極的になく3.1~3.6haを耕うんし、4.5~5.4万円の収入である。酪農用のものは飼料作の面積が狭いので、積極的な利用法の検討が必要である。共有のもの経営土地面積は4~3,500haで耕起面積は3.5~23haである。個人有のもの8台の経営土地面積の最小は0.5haであるが、これは他に兼業があり、他は1.8~3.6haで最大は園芸作物のみの7.7haである。これは賃耕を行わないが、他の7台は最小1ha、最大33haの賃耕を行い、最小3万最大42万円の収入をあげている。賃耕に当り作業強度が動力耕うん機より小さく、1日の作業時間を長くし、面積を広く行つて能率をあげ、耕深も在来より楽に深く行つている。賃耕を受ける農家も末耕土がないことや耕深の深いことを希む農家が相当速くより依頼に来る傾向がある。

### Ⅳ. 賃耕料金(10a当り)

大型のブラウ耕は800~1,300円、ブラウ耕と砕土では1,500~2,000円である。ロータベータによる砕土のみは500~700円、ハロー掛けは300円である。ロータベータによる耕起は1,500円である。春耕・秋耕に差はつけていない。古賀農協における柑橘園作業の深耕は2,000円で、溝をブラウでさらされるのみは700円として冬期に行つている。

中型農協有のものでは秋の畦立耕は1,500~1,800円、春田も同様である。共有の中型では秋のロータリ耕のみ1,000円、畦立耕1,200円、ロータリ耕とドリル1,800円である。春田は1例しかないが麦・なたね跡の耕起600円、うない掻き1,000円、休閑田の耕起1,000円としている。個人有のもの耕賃では秋田の耕起のみ1,200~1,500円、畦立耕1,000~1,500円、春田では耕起のみ1,000~1,200円、耕起代掻き1,500~1,600円、代掻きのみ500~800円、うない掻き1,000~1,200円、秋田のままの耕起1,000~1,600円等となつている。頼まれればやつてやる人と、かなり積極的にしている人とあるが殆んど賃耕による収入をあげている。

### Ⅴ. むすび

福岡県の大・中型トラクタ利用はまだ緒についたばかりで普及台数も少なく、利用の範囲も耕うん整地が主になつている。在来小型トラクターが普及し、特に筑後川下流地帯には、動力カルチや田圃における農電配線網等と相まつて、動力耕うん機利用作業体系が出来ていた。又一方には高畦作業の慣行があり、用排水路が兼用して地麦水の排除性が悪い等、大・中型トラクタ利用の進展がおそい阻害要因が種々考えられる。しかし乗用型トラクターを早く取り入れた農家には高畦は平畦に移行しつつあるし共同利用も現れ、労働生産性をあげ収量をも上げようとしている。中型はこの1、2年来急に農家の関心が高まつてきて普及台数も間もなく急増するのではないかと思われる。